奈良"		 専門学校	盟	講年度	今和05年	 E度 (2023年		授業科日	異文化交流 I		
科目基礎		<u> XI EL I<del>TI</del></u>	9 (77)	<del>                                       </del>	TOUR	-IX (20234	-i×)				
村日					科目区分		一般 / 選				
授業形態		実習					. <u>//</u> 種別と単位数				
開設学科			電子制御工学科				対象学年 1		. 1		
開設期		集中				週時間		1			
教科書/教材	<del>,</del>							 ぶ卅男車情! :	二條外 雜良 茁 伽 荖		
担当教員	<u> </u>	朴 槿英	beening the	vvoriu	till ough Ma <sub>k</sub>	ps . CLIL <del>X</del> iii	LIL 英 語と地図で学ぶ世界事情」, 三修社, 笹島 茂 他 著				
到達目標	 !										
1. 文化の 本校が提供 2. 本校が	多様性に気 する国際交 提供する国 在を意識し	I際交流プロ 、どのよう	]グラムに参 うな態度で異	疹加し、ラ 異文化を!	積極的に海外	·学生との交流を	区図ることが	できる。異なる	いを認知することができる。また、 できる。 文化を持つ学生との交流を通して、 語を用いて交流プログラムの報告会		
ルーブリ	ック										
			理想的想	理想的な到達レベルの目安標準的な到達レベルの目安				ルの目安	未到達レベルの目安		
異文化理解力			コとと	もに、自 その違い	する高い意識 国の文化へも いを認知するこ	5目を   異文化		て高い意識をも	異文化理解に対する意識が不十分である。		
グローバル・コミュニケーション カ			~  に、積棒		i理解をもつと i外学生との交 :る。	ぶぶを  伊樫叭	に海外学生のできる。	との交流を図る	積極的に海外学生との交流を図る ことができない。		
学科の到	達目標項	目との関	係								
準学士課程	(本科1~	·5年)学習	教育目標	(3)							
教育方法	等										
概要		異文化理 し、日本	解に関する 文化、学校	3 つのな	構成要素(①) 介並びに海外	態度、②知識、 学生とのコミニ	③技能)を ニケーショ	理解した上で、 ンを通してグル	海外学生との交流プログラムに参加 一バル感覚を身につける。		
授業の進め	講義により、「異文化理解」における3つの構成要素(①態度・②知識・③技能)を理解した上で、実際に海外学生との交流プログラムにおける学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して得られた知見をポスターにまとめる。										
注意点		と 関人学英で自事を おります おります はいます という はいます はいます はいます という という はいます という はいます という	異文化理解に対するオープンマインド、そして実践的な理文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 学習指針 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」,「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習(事前学習および事後展開学習) 事前学習としては、異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習としては、各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。								
学修単位	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		子白として	.16、台	共又10又加フ	ログラムを進し	ノし子のた知	一郎、	る矢文報白音で作成すること。		
授業の属性・履修上の区分 アクティブラーニング			ı	· #II EB			直拉莱科内		□ 実務経験のある教員による授業		
□ アクティ	<u> 1                                   </u>	<i>)</i>		イリ川			隔授業対応_		大伤柱駅ののる教具による技术		
	<u> </u>										
週 週		调	授業内容				1/2		<u> </u>		
		1週	1X*L JU					とこしい 正月伝	N.		
		2週									
	1stQ	3週									
		4週									
		5週									
		6週									
		7週									
		8週									
前期	2ndQ	9週									
		10週									
		11週									
		12週					+				
		13週					+				
1											
		14语									
		<u>14週</u> 15週									

		1	1						
	3rdQ	1週	インのご経のです。 2 ・	)に積極的 短期 前のPP 画う ポ 向りおよい に返した で に で で で で で で で で で で で で で で で で で	国際交流プログラム)の T作成、キャンパスツア 香港・シンガボール学 人学生受入活動への参加 集備活動 び役割別振り返りを行き PT、掲示用ポスター、	D受入 アーの 主の受 加	1.文化の多様性に気付え を高めるとともに、 自国のいを認知することがで積 際の準備に対け でを準模が提供する可 2.本校が学生との交流で をかにあり 2.本校が学生との交流で でからであるでで でからして でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで でいる	かくないでは、 かくないでは、 かくないできないできないできた。 はいでいる。 はいでいるできないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	け提と。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
		2週	」 ・ 国际メルノ	ロフ ノム	クルHKロムツ天心				
後期		3週							
		4週							
		5週	1						
		6週							
		7週							
		8週							
	4thQ	9週							
		10週							
		11週							
		12週	1						
		13週	1						
		14週							
		15週							
		16週		+ !					
	アカリキ	<u> </u>	の学習内容と至					1	
分類		分野	学習内容	学習内	容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合	ì							T	
課題提出				英語プレゼンテーション 		践活動 	合計		
総合評価割合 50				20		30	100		
基礎的能力	J	50			20	[3	0	100	